

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000185998.html>

小児・未成年者がインフルエンザにかかった時は、異常行動にご注意下さい

平成29年11月27日

厚生労働省 医薬・生活衛生局 医薬安全対策課

インフルエンザにかかった時には、抗インフルエンザウイルス薬の種類や服用の有無にかかわらず、異常行動（注1）が報告されています（参考4参照）。また、因果関係は不明ですが、抗インフルエンザウイルス薬の服用後に、異常行動と関連すると考えられる転落死等（注2）が報告されています。

（注1）急に走り出す、部屋から飛び出そうとする、徘徊するなどの行動。

（注2）平成21年4月～平成29年8月末の8シーズンで計8件報告されている（参考3参照）。

厚生労働省では、異常行動による転落等のリスクを低減するための具体的な対策を示し、都道府県等を通じて、医療機関等に注意喚起の徹底を依頼しました（別添参照）。

インフルエンザにかかった時は、抗インフルエンザウイルス薬の種類や服用の有無によらず、異常行動にご注意下さい。

<http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11125000-Iyakushokuhinkyoku-Anzentaishakuka/0000185992.pdf>

厚生労働省医薬・生活衛生局 医薬安全対策課

抗インフルエンザウイルス薬の使用上の注意に関する注意喚起の徹底について

抗インフルエンザウイルス薬投与後の異常行動の発現につきましては、本年11月9日に開催された薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会において、新たに得られた情報も踏まえ評価され、引き続き、抗インフルエンザウイルス薬の処方の有無、種類にかかわらず、異常行動についての注意喚起を徹底することが適当とされました。

また、異常行動に関連すると考えられる転落死も引き続き報告されており、注意喚起において具体的な説明を行うことの必要性も指摘されたことから、次に掲げる例を参考に、貴管内医療機関等に対して、インフルエンザ罹患時の対応についての注意喚起に御協力いただきますよう、お願いします。

（具体的な注意喚起の例）

抗インフルエンザウイルス薬の種類や服用の有無によらず、インフルエンザと診断され治療が開始された後、少なくとも2日間は、保護者等は小児・未成年者が一人にならないよう配慮することを原則とする旨の説明に加え、次の注意喚起の例が考えられます。

(1) 高層階の住居においては、例えば、

- ・ 玄関及び全ての窓の施錠を確実にすること（内鍵、補助錠がある場合はその活用を含む。）、
- ・ ベランダに面していない部屋で療養を行わせること、
- ・ 窓に格子のある部屋がある場合はその部屋で療養を行わせること、

等、小児・未成年者が容易に住居外に飛び出ない保護対策を講じることを医療関係者から患者及び保護者に説明すること

(2) 一戸建てに住んでいる場合は、例えば、(1)の内容のほか、出来る限り1階で療養を行わせること
なお、厚生労働省ホームページの「平成29年度 今冬のインフルエンザ総合対策について」の「平成29年度 インフルエンザQ&A」で異常行動について別紙のとおり改訂するとともに、関係製造販売業者あて、上記の具体例を含む注意喚起を徹底するよう指示しましたのでお知らせします。

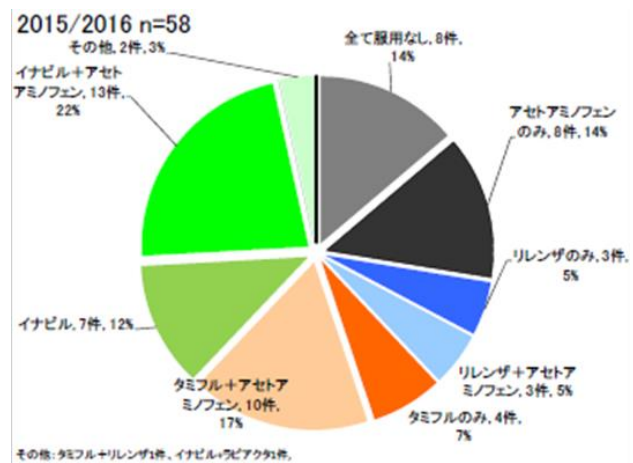
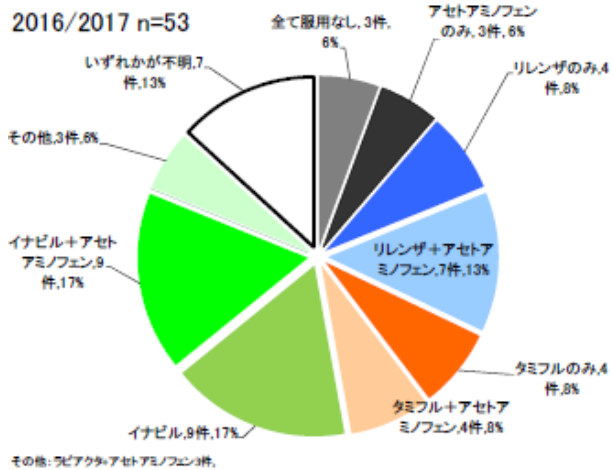
医薬品医療機器法において、医薬品の製造販売業者（製薬企業）は、その取り扱う医薬品による副作用による症例を知ったときは、厚生労働大臣に報告することが義務づけられている（副作用報告）。以下の集計は、各シーズンの副作用報告をまとめたもの。

なお、副作用報告は、医薬品との因果関係が不明な症例も含めて報告される。また、抗インフルエンザウイルス薬と異常行動の因果関係は不明とされている。

	2009/2010 シーズン		2010/2011 シーズン		2011/2012 シーズン		2012/2013 シーズン		2013/2014 シーズン		2014/2015 シーズン	
	異常行動報告数	うち死亡	異常行動報告数	うち死亡	異常行動報告数	うち死亡	異常行動報告数	うち死亡	異常行動報告数	うち死亡	異常行動報告数	うち死亡
タミフル	50	1	16	0	31	0	31	0	23	2	24	0
うち未成年	44	0	15	0	20	0	19	0	17	0	16	0
リレンザ	65	0	8	1	7	0	1	0	5	0	3	0
うち未成年	62	0	8	1	7	0	1	0	4	0	3	0
ラビアクタ	未承認	未承認	1	0	4	0	3	0	1	0	0	0
うち未成年	-	-	1	0	3	0	0	0	1	0	0	0
イナビル	未承認	未承認	5	0	15	1	2	0	10	0	5	0
うち未成年	-	-	4	0	15	1	1	0	8	0	3	0

2015/2016 シーズン		2016/2017 シーズン		合計	
異常行動報告数	うち死亡	異常行動報告数	うち死亡	異常行動報告数	うち死亡
25	0	38	0	238	3
18	0	21	0	170	0
4	1	11	1	104	3
2	1	11	1	98	3
0	0	0	0	9	0
0	0	0	0	5	0
11	0	5	1	53	2
8	0	5	1	44	2

服用した薬の組み合わせ（重度の異常な行動すべて：①突然走り出す、②飛び降り、③その他）



梅毒、20歳代女性で急増…潰瘍や発疹が消えても菌増殖 2017年12月8日

性感染症の梅毒の患者が急増しています。近年は患者数が年間1000人未満で推移していましたが、この数年で急増しており、今年には既に5000人を超えました。早期に診断をつけ、薬で治療し、病気を広げないことが大切です。（佐々木栄）



なぜ起きる？



「梅毒トレポネーマ」という細菌に感染して、発症します。主に性的接触を通じて菌が粘膜や皮膚の傷から入ります。口や肛門からも感染します。

国内では終戦直後、患者が年間20万人を超えていましたが、1990年代前半には1000人を切りました。でも、2013年に再び1000人を超え、今年(2017年)は11月19日時点で5053人。5000人を超えたのは44年ぶりです。

患者は20～40歳代の男性に多く、以前は男性の同性間での感染が目立ちましたが、今は異性間での感染が増えました。20歳代の女性の増加も顕著です。専門家の間では、性産業に従事する女性と客の男性に広がっていると推測されています。大都市に集中していますが、地方でも増えています。

どんな症状？

予防治法

- 不特定多数との性的接触を避ける
- 心配な時は検査を受け、きちんと治療する
- 感染が分かればパートナーに伝える



感染から3～6週間で、感染部位に潰瘍ができたり、股関節付近や首のリンパ節が腫れたりします。「1期梅毒」といわれます。潰瘍は痛みを伴わないことが多く、特に女性は気づかない場合が多いです。

3か月たつと、バラの花びらが散ったような「バラ疹」という赤っぽい発疹が現れます。通常、痛みやかゆみはありません。皮膚が盛り上がる発疹や首のリンパ節の腫れが出ることもあります。これらが「2期梅毒」です。

1～2期の症状は自然に消えますが、菌は体内で増殖しており、人に感染させる危険性が高いです。一部の患者に髄膜炎や目、脳の異常が出ることもあります。

治療せずに放置すると、弁膜症などの心臓の病気や、認知症のような脳の障害、失明など重い症状が出る場合があります。「晩期梅毒」といい、感染から数年～数十年後に症状が出ます。

妊婦が感染すると胎児も菌に侵されます。「先天梅毒」と呼ばれ、胎児の肝臓肥大などで分かることがある一方で、感染が見逃され、学童期の視力低下などで気づくこともあります。

どう治すの？

感染すると血液中に菌を攻撃する抗体ができます。感染の有無は、採血して抗体の量(抗体価)を測って診断します。感染から3週間未満では、検査で確定できないこともあります。

治療法

ペニシリン系の抗菌薬を服用

1期 2～4週間

2期 4～8週間

晩期 12週間



治療にはペニシリン系の抗菌薬の服用が有効です。1期は2～4週間、2期は4～8週間、晩期は12週間、飲むのが目安です。服用後、高熱が出るがありますが、飲みきることが重要です。治療後、抗体価が基準

値以下になったことを確認します。薬を飲めば菌は排除でき、症状も治まりますが、治療が遅れば後遺症が残ることがあります。

日本性感染症学会代議員で、谷口病院(大阪府泉佐野市)の谷口武院長は「リスクの高い不特定多数の性的接触は避けること」と強調します。コンドームの予防効果は限定的です。無料検査を提供する保健所は多く、心配がある人は検査を受けましょう。感染が分かれば速やかにパートナーに知らせることが大切です。完治するまで性的接触は厳禁です。